＜幼児保育学科＞

教養教育科目

科目名	ページ
哲学	1
国語・国文学	2
日本の伝統美学	3
日本国憲法	4
心理学	5
情報科学Ⅰ	6
情報科学Ⅱ	7
文化比較	8
英語ゼミⅠ	9
スポーツ科学ゼミⅠ	10
情報科学ゼミⅠ	11
英語ゼミⅡ	12
スポーツ科学ゼミⅡ	13
情報科学ゼミⅡ	14
英会話Ⅰ	15
英会話Ⅱ	16
現代スポーツ論	17
運動と健康	18
生涯スポーツ実技	19
キャリア形成演習	20
野外活動演習	21

授業科目	哲学	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	山岡　匡（非常勤）		
授業の目的	現代の倫理的問題（社会問題）を感じて広げて、適切に対応するため、哲学的アプローチを試みる。		
到達目標	現代の倫理的問題の背景としてある思想・価値観を知り、自分なりの判断基準を説明できるようにする。		
授業の計画 各回２時間	1	オリエンテーション、本講義で扱う典型的事例にふれる。	
	2	「哲学」とは何かについて	
	3	西洋哲学史概説	
	4	「倫理学とは何か」について	
	5	「応用倫理学とは何か」について	
	6	現代の倫理としての自由主義について	
	7	自己決定権と他者危害の原則①　―　他者危害の原則で説明できる事例	
	8	自己決定権と他者危害の原則②　―　自由主義への批判について	
	9	エイズ患者のプライバシー①　―　個人の優先か、社会の優先か	
	10	エイズ患者のプライバシー②　―　感染症患者のプライバシー保護方法	
	11	エイズ患者のプライバシー③　―　差別への対応について	
	12	代理母は許されるか①　―　生殖補助技術の多様化	
	13	代理母は許されるか②　―　出産は社会的行為か	
	14	安楽死と尊厳死①　―　安楽死についての世界の現状	
	15	安楽死と尊厳死②　―　死をコントロールできる社会	
	16	試験	
授業形態	単独。講義		
テキスト	なし		
参考文献	加藤尚武「現代倫理学入門」1997（講談社学術文庫）		
評価方法・基準	試験 85%・授業態度 15%を総合的に評価する。評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回で説明する。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	授業後にノート整理等の復習をすることがのぞましい。予習・復習合計 4 時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業終了後質問を受け付ける。		
履修上の注意事項	医療・福祉の現場と倫理（哲学）の問題が、深い関係にあるということを知ってもらえれば幸いです。		

授業科目	国語・国文学	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	戸田　浩　（中等教育の国語科指導に長年携わり、また教育行政では現職教員の授業力向上の指導実務を担当してきた教員が、教養課程の国語・国文学講義を担当する。）		
授業の目的	本学が目指す「キャリア形成基礎力」の養成に当たって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、人間・社会・自然などについて考察し、自らの考えをよりよく表現できる力は不可欠な事項である。本講座では、『竹取物語』を精読する中で、それらの技能と実践力を養おうとするものである。		
到達目標	文脈に即して、書かれている内容を理解することを基礎として、自らの思索や調査を表現する力をつけるとともに、他者との主体的で対話的な学びを深めるとともに、言語を駆使する訓練を通して伝え合う力を向上させることを到達目標とする。		
授業の計画 各回2時間	1	中古文学を読むための基本事項の解説 授業の進め方を説明し、『竹取物語』の概要と成立期の時代性等を解説する。 レポート執筆の留意点等について説明する。	
	2	「かぐや姫の生ひ立ち」の精読	
	3	「貴公子たちの求婚」の精読 「佛の御石の鉢」の精読	
	4	「蓬莱の玉の枝」（前半）の精読	
	5	「蓬莱の玉の枝」（後半）の精読	
	6	「火鼠の皮衣」の精読	
	7	「龍の頸の玉」の精読	
	8	「燕の子安貝」の精読	
	9	「火鼠の皮衣・龍の頸の玉・燕の子安貝」の精読のまとめ	
	10	『竹取物語』精読の中間まとめ　学習ノートの提出	
	11	「御門の求婚」の精読	
	12	「かぐや姫の昇天」の精読	
	13	「ふじの山」の精読	
	14	『竹取物語』の構成と内容等についての総まとめ①	
	15	『竹取物語』の構成と内容等についての総まとめ②　レポートの提出（2000字程度）	
	16	試　験	
授業形態	単独。講義		
テキスト	『竹取物語』（阪倉篤義 校訂　岩波文庫）		
参考文献	雨海博洋『竹取物語』（旺文社文庫）		
評価方法・基準	試験（70%）、授業（レポート含む）への取り組み（30%） 評定・評価の方法や当該授業の履修者に対するフィードバックの方法は授業の初回で説明する。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	受講の準備として、各回で学習する本文の現代語訳を必ずノートに記載して授業に臨むこと。また、復習として受講する中での課題や気づきをノートに整理しておくこと。（予習・復習　計４時間）		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日　４限目		
履修上の注意事項	授業ノートの提出を求めるので、ノートづくりを自らが工夫し、創造性あるノートづくりを心掛けること。		

授業科目	日本の伝統美学	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	幼児保育学科　1年　後期		
担当教員	川村　真紀子（非常勤）		
授業の目的	「多様な人々と協働し学び続ける力を身につける」ため、文字の均整、均衡を理解し、文字を正しく美しく、体裁をよくまとめて書く。 特に社会に出て文字を書く場面に出会った時、困らない様に学習する。		
到達目標	自分の名前、住所などが楷書、行書で正確に書ける様になる。 日常的によく使う文字や、葉書、履歴書を美しく書ける様になる。		

授業の計画 各回2時間		
	1	ひらがなの練習（あいうえお）　独立書展の競書出品
	2	ひらがなの練習（あいうえお）　独立書展の競書出品　添削箇所の練習　フィードバック
	3	ひらがなの続け方（連綿）　独立書展の競書出品
	4	ひらがなの続け方（連綿）　独立書展の競書出品　添削箇所の練習　フィードバック
	5	基本点画の練習（楷書）　独立書展の競書出品
	6	基本点画の練習（楷書）　独立書展の競書出品　添削箇所の練習　フィードバック
	7	基本点画の練習（楷書）　独立書展の競書出品　添削箇所の練習　フィードバック
	8	基本点画の練習（行書）　独立書展の競書出品
	9	基本点画の練習（行書）　独立書展の競書出品　添削箇所の練習　フィードバック
	10	基本点画の練習（行書）　独立書展の競書出品　添削箇所の練習　フィードバック
	11	楷書と行書の違い　独立書展の競書出品
	12	年賀状の書き方　独立書展の競書出品
	13	漢字かなまじり文の練習　独立書展の競書出品
	14	漢字かなまじり文の練習　独立書展の競書出品　添削箇所の練習　フィードバック
	15	履歴書の書き方　独立書展の競書出品
	16	

授業形態	単独。手本をみて練習、添削
テキスト	独立書誌（高知県独立書人団）
参考文献	なし
評価方法・基準	競書（80%）・授業態度（20%） 評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回で説明する。
授業時間外に必要な学習内容と時間	授業で出されたお手本の練習、日頃から習った事を意識して文字を書くこと。 予習・復習合計1時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業終了後に受け付けます。
履修上の注意事項	競書出品のために毎月墨線誌（毎月350円）とペン字用紙（200円）が必要です。

授業科目	日本国憲法	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	渡邉　富一（非常勤）		
授業の目的	卒業認定・学位授与の方針の中で、特に「人命を預かる責任感と倫理観」を身につけて「世界や地域の動向」を理解するため、学生が、我が国の基本法である日本国憲法に対する理解を深めることの手助けをするのがこの授業の目的である。		
到達目標	学生が日本国憲法に対する興味を持つようになる。		
授業の計画 各回2時間	1	憲法とは何か	
	2	日本憲法史（１）明治憲法の成立	
	3	日本憲法史（２）明治憲法の特色と運用	
	4	日本憲法史（３）日本国憲法の成立①	
	5	日本憲法史（４）日本国憲法の成立②	
	6	日本国憲法の特色（１）国民主権　①国民主権とは	
	7	日本国憲法の特色（１）国民主権　②国民主権と天皇制	
	8	日本国憲法の特色（１）国民主権　③国民主権と間接民主主義	
	9	日本国憲法の特色（２）平和主義　①平和主義の系譜	
	10	日本国憲法の特色（２）平和主義　②憲法９条第１項（戦争の放棄）	
	11	日本国憲法の特色（２）平和主義　③憲法９条第２項（戦力の不保持と交戦権の否認）	
	12	日本国憲法の特色（３）基本的人権の尊重　①人権の意義と人権の体系	
	13	日本国憲法の特色（３）基本的人権の尊重　②人権の享有主体	
	14	日本国憲法の特色（３）基本的人権の尊重　③人権の限界	
	15	日本国憲法の特色（３）基本的人権の尊重　④人権の国際的保障	
	16	試験	
授業形態	単独。講義		
テキスト	『法学・憲法への招待』後藤光男　編著　敬文堂（2014年）		
参考文献	『デイリー六法』（最新版）／三省堂、『ポケット六法』（最新版）／有斐閣、 『セレクト六法』（最新版）／岩波書店、『法学六法』（最新版）／信山社		
評価方法・基準	試験（７０％）、レポート（３０％）レポートは返却し、試験は正答例を掲示する。 評価の詳細な方法については授業の初回で説明する。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	文献を事前に読んでくること。予習２時間　授業の内容を復習し理解を深めること。復習２時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業終了後に質問を受け付ける。		
履修上の注意事項	授業中の私語は慎んでほしい。		

授業科目	心理学	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	吉村　斉		
授業の目的	卒業認定・学位授与の方針の中で、特に「広い視野から人命を尊重」し、その「責任感と倫理観」に基づいて、「キャリア形成基礎力」を発揮するため、人間形成や対人関係のあり方、さらには社会現象の理解につなげ、社会適応を促進するための知識と測定方法を理解し活用することができるようになる。		
到達目標	社会の状況を積極的に受け入れ、倫理的な観点から考えて行動するため、心理学に関する理論を自らの体験や日常生活で見られる事例を踏まえながら説明し、自らの将来計画に活かすことができる。		

授業の計画 各回２時間		
	1	社会生活における心理学（テキストp.1～4・p.10）　授業改善に向けた計画 血液型ステレオタイプがもたらす問題　科学の基準　ルーブリックの説明　課題①
	2	知覚①（錯視）（テキストp.4～8） 人間の目は確かか？　心理的法則と人間の行動の関係　課題②
	3	知覚②（反転図形）（テキストp.27～36）　課題②の返却と解説 ないものが見える？あるものが見えない？　複数の視点から捉える必要性　課題③
	4	学習①（条件づけ）（テキストp.37～48）　課題③の返却と解説 人は経験によって造られるのか？　情緒の発達　課題④
	5	学習②（記憶）（テキストp.49～57）　課題④の返却と解説 覚えやすいこと、覚えにくいこと　記憶と忘却のメカニズム　課題⑤
	6	学習③（認知・思考）（テキストp.57～62）　課題⑤の返却と解説 新しい発想を生むためには？　洞察　知能　創造性　課題⑥
	7	人格①（類型論・特性論）（テキストp.117～123）　課題⑥の返却と解説 人格はわかるか？　測定法　意義と限界　課題⑦
	8	人格②（人格検査）（テキストp.124）　課題⑦の返却と解説 自分の性格を判定してみよう　検査の実施と分析－YG性格検査を例に－　課題⑧
	9	健康（欲求不満・防衛機制）（テキストp.63～71・p.124）　課題⑧の返却と解説 ストレスがたまると、どうなる？　交流分析　フラストレーション　課題⑨
	10	発達①（発達理論）（テキストp.103～113）　課題⑨の返却と解説 胎児・乳幼児の特徴　親子関係　課題⑩
	11	社会①（印象形成）（テキストp.129～134、p.139～140）　課題⑩の返却と解説 人を好きになる・好きにさせるためには？　対人魅力　バランス理論　課題⑪
	12	社会②（社会的態度）（テキストp.71・p.135～136・p.138）　課題⑪の返却と解説 人付き合いも楽じゃない?!　認知的不協和　説得・同調　他者の存在と援助行動　課題⑫
	13	社会③（リスク管理）（テキストp.137～138）　課題⑫の返却と解説 学生生活のリスクを管理しよう　悪徳商法、カルト集団、ネット犯罪　課題⑬
	14	社会③（コミュニケーション）（テキストp.136～137）　課題⑬の返却と解説 あなたは情報を正確に伝えられるか？　伝言ゲームに見る情報伝達過程　課題⑭
	15	社会④（流言・パニック）（テキストp.137～138・p.143～145）　課題①⑭の返却と解説 うわさは本当か？　流言　災害とパニック
	16	試　験

授業形態	単独。テキストとプリントを使用し、講義形式で行う。テーマに基づいて討論し発表も行う。
テキスト	「スタディガイド心理学」美濃哲郎・大石史博編（ナカニシヤ出版）
参考文献	随時紹介
評価方法・基準	試験60%、授業への取組20%、課題20%。学習した内容について、日常生活における身近な事例や自らの体験例を挙げながら説明することができる。詳細は「心理学・学習成果評価のためのルーブリック」に基づく。試験は正答例を研究室掲示板に掲示してフィードバックを行う。
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：テキストで該当する部分を予め読み、理論の概要をノートにまとめる（2時間）。 復習：学んだ理論等について、日常生活での体験や身近な事例をまとめる（2時間）。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	木曜日午後4時30分－6時。その他の時間も随時。
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載している内容、および授業１回目に説明する事項を厳守すること。

授業科目	情報科学Ⅰ	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	幼児保育学科　1年　前期		
担当教員	濱田　美晴		
授業の目的	専門的職業人として必要な知識と技能を身につけるため、情報科学Ⅰ・Ⅱ ではグループワークによる学習活動を通じて主体的に学ぶ姿勢を身につけ、社会人として十分な情報処理能力を養うことを目的とする。		
到達目標	・グループワークによる学習活動を通じて積極的なコミュニケーションが取れる。 ・コンピュータ操作に関する問題を解決できるようになる。 ・セキュリティと情報モラルについて正しい知識を持つ。 ・電子機器を用いて、実用的な文書作成ができる。 ・画像処理ソフトを利用し、画像素材を目的に応じて加工できる。		

授業の計画 各回2時間		
	1	ガイダンス（チームの決定，アイスブレイク，ミニTBL，利用者登録，実習環境の説明） Windows の基本操作とファイル管理，サーバの理解
	2	インターネットによる情報検索 セキュリティと情報モラル【予習課題】
	3	TBL（インターネット社会と情報モラルに関する確認テスト）
	4	レポートを書くために ・文章のポイントを学ぶ（事実と考察の書き方），文章を校正する
	5	Word　レポートの機能 ・表紙の作成，段組編集，フッター機能，原稿用紙の利用 課題1「セキュリティと情報モラルレポート」提出
	6	Word　ビジネス文書について学ぶ ・書式の設定，表の作成，図の挿入，印刷 肖像権について　課題1のフィードバック
	7	Word　園だよりの作成 ・画像や図のある文書作成のポイント インターネットでの画像検索，著作権について
	8	課題2「園だより」提出
	9	Word　表作成を利用した指導案の作成 ・表挿入，セル結合，線種とページ罫線と網掛けの設定　課題2のフィードバック
	10	課題3「表作成を利用した指導案」提出
	11	TBL（Word の操作に関する確認テスト）　課題3のフィードバック
	12	画像処理・Paint.NET の基本操作 ・デジタルカメラの扱い，画像加工，ファイルの種類
	13	画像処理・レイヤーの理解 ・スキャナの扱い
	14	TBL（画像処理の操作に関する確認テスト）
	15	後期授業に向けて　～テーマ「幼児の遊びについて」情報の整理～
	16	試験

授業形態	単独。コンピュータ演習 グループで互いが教え合う中から新しい知識・技術・価値観を獲得し，理解を深める
テキスト	プリント配布
参考文献	「学生のための Office2010&情報モラル」（ノア出版） 「保育者のためのパソコン講座」（萌文書林）
評価方法・基準	授業への取り組み（10%），TBL（30%），課題提出（30%），試験（30%） 各課題に従って操作できるようになる。正答例を示してフィードバックを行う。
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：TBL に対する予習（0.5時間） 復習：授業の内容を復習し理解を深め、課題に取り組む（0.5時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	毎週、火曜日 14：30－16：00　濱田研究室
履修上の注意事項	

授業科目	情報科学Ⅱ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	濱田　美晴		
授業の目的	情報科学Ⅰに引き続き、専門的職業人として必要な「知識と技能」を身につけるため、社会人として十分な情報処理能力を養うことを目的とする。グループワークによるTBLの学習活動を通じて、主体的に学ぶ姿勢を身につける。		
到達目標	・Power Pointの学習を通して、効果的なプレゼンテーションの資料を作成できるようになる。 ・表計算ソフト Excel の学習を通して、効率よい作業ができるようになる。		
授業の計画 各回2時間	1	ガイダンス，アイスブレイク プレゼンテーションソフトPowerPointの基本操作 ・アウトライン機能	
	2	効果的なプレゼンテーション ・アニメーション効果，図解による表現方法，SmartArtの利用 ・画像・動画・音による表現方法	
	3	課題1「幼児の遊びについて」レポート提出	
	4	プレゼンテーション「幼児の遊びについて」資料製作のルール　　課題1のフィードバック	
	5	プレゼンテーション 発表の基礎知識	
	6	プレゼンテーション 発表技術を磨く，伝えるための技術	
	7	スライドの結合 課題2「幼児の遊びについて」プレゼンテーション提出	
	8	プレゼン発表 ・ルーブリックを使ったピア評価	
	9	プレゼン発表 ・ルーブリックを使ったピア評価	
	10	TBL（プレゼンテーションに関する確認テスト）　　課題2のフィードバック	
	11	表計算ソフトExcelの基本操作 ・基本的計算機能（数式の利用），オートフィル機能	
	12	課題3　12か月分のカレンダー作成 ・シートの操作，ペイントの利用，，書式設定，印刷設定	
	13	関数の利用 ・合計，平均，最大，最小，個数，順位，判定　　課題3のフィードバック	
	14	グラフ機能，データベース機能 課題4　Excelに関する総合問題	
	15	・TBL（Excelに関する確認テスト）　　課題4のフィードバック	
	16		
授業形態	単独。コンピュータ演習 グループで互いが教え合う中から新しい知識・技術・価値観を獲得し，理解を深める		
テキスト	プリント配布		
参考文献	「学生のための Office2010&情報モラル」（ノア出版） 「自身がつくプレゼンテーション」（FOM出版）		
評価方法・基準	授業への取り組み（20%），TBL（20%），課題提出・発表演習（60%）調査した内容についてプレゼンテーションにまとめ、発表できる。ピア評価の結果をフィードバックする。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：TBLに対する予習（0.5時間） 復習：授業の内容を復習し理解を深め、課題に取り組む（0.5時間）		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	毎週、火曜日 14：00－16：00　濱田研究室		
履修上の注意事項			

授業科目	文化比較	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	公文　素子（非常勤）（外国人に対する日本語教育の経験を活かし、外国人との関わりや異文化理解に関する内容について講義演習を行う。）		
授業の目的	「異文化理解」「多文化共生」「比較文化」をキーワードに、かつて世界で活躍した先人（高知県出身者を含む）の生き方を参考に、グローバル化が進む現代において、心得ておかなければならないことを学ぶ。		
到達目標	国際人としての知識を身に付け、グローバル化社会に対応できる。		
授業の計画 各回2時間	1	オリエンテーション、―あなたにとっての外国、外国人とは―	
	2	第一外国語と日本（国内・県内）の外国人登録者数からわかること	
	3	お国柄：外国から見た日本、外国人から見た日本人	
	4	外国のマナーと日本のマナー	
	5	「やさしい日本語」を知る・学ぶ①	
	6	「やさしい日本語」を知る・学ぶ②	
	7	メディアから高知を知る	
	8	先人から学ぶ国際交流　①：紹介・解説	
	9	〃　：発表	
	10	先人から学ぶ国際交流　②：紹介・解説	
	11	〃　：発表	
	12	先人（高知県出身者）から学ぶ国際交流　①：紹介・解説	
	13	〃　：発表	
	14	先人（高知県出身者）から学ぶ国際交流　②：紹介・解説	
	15	〃　：発表	
	16	試験	
授業形態	単独・講義		
テキスト	特になし		
参考文献	「事典：日本人の見た外国」富田仁（日外アソシエーツ） 「世界比較文化事典」T.Morrison他　（マクミラン　ランゲージハウス） 「多文化教育事典」　カール・A・グラント他　（明石書店） 「日本と世界を結んだ偉人　古代～江戸、明治、大正～昭和編（PHP） 「やさしい日本語－多文化共生社会へ－」庵功雄　（岩波新書） 高知新聞		
評価方法・基準	試験：40%、発表：30%、課題への取り組み：20%、授業態度：10%　＊評価の詳細やフィードバックの方法については授業の初回で説明する。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：①参考資料を読む　②本、インターネットなどで情報収集　予習時間４時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業終了後		
履修上の注意事項	積極的参加と、毎週予習を必要とする。		

Course Name	English Seminar I　英語ゼミ I	授業の方法・単位	Seminar・1 credit
Department	Early Childhood Education & Care　幼児保育学科 1st-year　1st semester		
Instructor	Paula D. Fabian　ポーラ・ディ・フェビアン		
Aim of Class	Students will become more internationalized by broadening their reading knowledge/understanding of other cultures/countries & mastering English language skills.		
Achieving Goal	Students will acquire a better understanding of culture & language by reading/discussing stories/folktales in English from different countries & doing individual/group research.		
授業の計画 各回2時間	1	Introduction: Reading, cultural background & translation differences	
	2	Book I (Guri & Gura): read aloud & translate	
	3	Book I: do cultural research on story, vocabulary & English expressions	
	4	Book I: make a draft explaining the story & cultural information/themes	
	5	Book I ORAL PRESENTATION	
	6	Book II: choose a book to read (Group work)	
	7	Book II: do cultural research on story, vocabulary & English expressions (Group work)	
	8	Book II: make a draft explaining the story & cultural information/themes (Group work)	
	9	Book II Group PRESENTATION: make an oral presentation	
	10	Book III: choose a book to read (Group work)	
	11	Book III: do cultural research on the story, vocabulary & English expressions (Group work)	
	12	Book III: make a draft explaining the story, vocabulary & English expressions (Group work)	
	13	Book III Group PRESENTATION: make an ORAL presentation	
	14	Theme/Book IV: choose a book to read or theme to research (Individual work)	
	15	Theme/Book IV: do cultural research on the story/theme, vocabulary & English expressions (Individual work)	
	16	Final Written Examination REPORT on Theme/Book IV	
授業形態	Seminar in English given by American instructor		
Textbook	Books lent from the library & various handouts will be distributed. Standard English-Japanese dictionary		
Additional Materials	Additional materials & handouts will be distributed as needed.		
Evaluation	Class Participation: reading aloud, expressing opinions & actively taking part in discussion(30%), Research & Presentations(30%), & Final Examination Report(40%). Students are expected to master basic English reading skills & cultural understanding.		
Study Time	Students are expected to spend at least one hour preparing & reviewing for lessons. Students will keep an English notebook writing down vocabulary words & phrases, grammar, the correct use of English expressions, & cultural information.		
Office Hours	After Class		
Special Note	Students are expected to keep an English folder/notebook for the class & bring a standard English-Japanese dictionary to every class.		

授業科目	スポーツ科学ゼミⅠ	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	幼児保育学科　1年　前期		
担当教員	山本　英作		
授業の目的	スポーツをめぐる様々な事象（遊び、祭り、健康観、身体観などを広く含む）に注目する。問題解決力や論理的思考力、コミュニケーション能力を高めるために、受講生は自ら選定したテーマについて調査研究と討議を行う方法を習得する。これらは「社会の諸問題に対して、子どもの教育・保育に基づいた考えをまとめ、表現し、行動することができる」という資質につながる。		
到達目標	・自分史とスポーツとの関わりを振り返りながら、研究テーマを選定することができる。 ・テーマに合った調査方法を選択して情報・資料を収集し、進捗状況を報告することができる。 ・調査した内容をレポートにまとめ、研究発表と質疑応答を行うことができる。		

授業の計画 各回2時間		
	1	ガイダンス：「スポーツ科学ゼミⅠ」で何を学ぶのか？　ルーブリックの説明
	2	研究テーマの設定(1)：「自分史におけるスポーツ」小レポート作成
	3	研究テーマの設定(2)：「自分史におけるスポーツ」発表、討議　課題1：小レポート
	4	研究テーマの設定(3)：　研究テーマの検討　課題のフィードバック
	5	情報・資料の収集(1)：　図書館を活用した調査方法
	6	情報・資料の収集(2)：　インターネットを活用した調査方法
	7	情報・資料の収集(3)：　聴き取りによる調査方法
	8	資料の整理・分析(1)：　研究テーマの再検討　課題2：中間レポート
	9	資料の整理・分析(2)：　レポートの構想　課題のフィードバック
	10	レポート作成(1)：「序論」を書く
	11	レポート作成(2)：「本論」（前半）を書く
	12	レポート作成(3)：「本論」（後半）を書く
	13	レポート作成(4)：「結論」を書く
	14	まとめ(1)：　レポート発表、討議　課題3:発表抄録
	15	まとめ(2)：　レポート修正、完成　課題4:最終レポート
	16	

授業形態	単独。複数学科の受講生が、調査研究と討議を通して学び合う演習である。
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考文献	「体育の科学」（杏林書院）ほか、受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。
評価方法・基準	授業への積極的な取組（50%）、レポート等の提出物（50%） ルーブリックで基準を示し、評価のポイントを明らかにしてフィードバックを行う。
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：次回の内容に応じた作業計画を立てる。（0.5時間） 復習：各回の作業を次回までに完了しておく。（0.5時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火・金曜日 16時～18時　山本（英）研究室
履修上の注意事項	初回ガイダンスで説明する。スポーツをめぐる様々な事象に興味関心を持ち、図書館の蔵書・資料やウェブ資料を用いた調査研究に意欲的であることが求められる。

授業科目	情報科学ゼミⅠ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	寺尾　康(高知県教育センター、高知県教委、情報技術研究の実務経験を有する教員が情報技術とその仕組み、日本語ワープロなどについて指導する)、濱田　美晴		
授業の目的	「保育者に必要な基本的技能」として実践的な能力を備えるためのリテラシーを培うとともに、日本語ワープロ検定への挑戦を通して、情報技術とその仕組みを理解し、課題に従って、必要な入力、書式等の設定ができるようになる。また、時間内に処理ができるようになる。		
到達目標	学習履歴の分析の重要性を認識することができる。学習内容を、順序だててまとめることができる。		
授業の計画各回2時間	1	ガイダンス利用者登録、授業の進め方の説明、ワープロ検定文書問題のポイント(3級)	
	2	ワープロ検定文書問題のポイント(準2級)	
	3	コース振り分け、ワープロ検定練習1　ホームポジション　キーと指の対応	
	4	ワープロ検定練習2　主な学習項目：タッチタイピングの練習（ＪＩＳ配列アルファベット配置）	
	5	ワープロ検定練習3　主な学習項目：かなタイピングの練習（ローマ字入力）	
	6	ワープロ検定練習4　主な学習項目：速度練習（１０分計測３００字目標から）1回目	
	7	ワープロ検定練習5　主な学習項目：変換の仕方の練習（文節変換、連文節変換、単漢字変換、熟語変換等）	
	8	ワープロ検定練習6　主な学習項目：速度練習（１０分計測３００字目標から）2回目	
	9	ワープロ検定練習7　主な学習項目：速度練習（１０分計測３００字目標から）3回目	
	10	ワープロ検定練習8　主な学習項目：速度練習（１０分計測４００字目標から）1回目	
	11	ワープロ検定練習9　主な学習項目：速度練習（１０分計測４００字目標から）2回目	
	12	ワープロ検定練習10　主な学習項目：ビジネス文書編集基礎練習（縦倍角、横倍角、アンダーライン、網掛け、均等割付、罫線を使った表作成等の説明）	
	13	ワープロ検定練習11　主な学習項目：ビジネス文書編集基礎練習（計測練習）	
	14	ポートフォリオの整理と学習項目の振り返り	
	15	ポートフォリオのまとめと提出	
	16		
授業形態	クラス分け。複数。ポートフォリオを活用し主体的学びを実践する。		
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法・基準	授業項目に対する関心・意欲・態度、授業内課題（60%）、ポートフォリオのまとめ（20%）、検定（模擬）試験結果（20%）標準的なワープロの操作を理解し、手際よく作業できるようになる。毎時課題についてのフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	教員が指定する教材を用いて練習をするなど予習・復習をすること　予習・復習合計1時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日　午後2時30分～4時　寺尾、濱田研究室		
履修上の注意事項	ゼミにおいては、積極的な学習態度が必要とされる。 一定の到達度により、クラス分けをする。２級クラス：濱田　３級クラス：寺尾		

Course Name	English Seminar Ⅱ　英語ゼミⅡ	授業の方法・単位	Seminar・1 credit
Department	Early Childhood Education & Care　幼児保育学科　1st-year　2nd semester		
Instructor	Paula D. Fabian　ポーラ・ディ・フェビアン		
Aim of Class	Students will become more internationalized by broadening their reading knowledge/understanding of other cultures/countries & mastering English language skills.		
Achieving Goal	Students will acquire a better understanding of culture & language by reading/acting out/explaining stories/folktales in English from various countries & doing individual/group research.		
授業の計画各回2時間	1	Introduction: Reading, cultural information, & translation differences.	
	2	English Play I: The 3 Little Pigs	
	3	Group Research on English Culture: Housing Structure & Animals	
	4	English Play II: Little Red Riding Hood	
	5	Group Research on English Culture: Family, Childcare, & Get Well Gifts	
	6	English Play III: Hansel & Gretel	
	7	Group Research on English Culture: Family Poverty, Favorite Sweets, & Witches	
	8	English Play IV: Snow White	
	9	Group Research on English Culture: Women's Future Dreams & Beauty	
	10	English Play V: Beauty & the Beast	
	11	Group research on English Culture: Mythical Creatures	
	12	Events in English Speaking Countries: Halloween/Thanksgiving	
	13	Individual Research on English Culture: Spring/Autumn Events	
	14	Events in English Speaking Countries:　Christmas/New Year's	
	15	Individual Research on English Culture: Original Topic	
	16	Final Written Cultural Examination REPORT	
授業形態		Seminar in English given by American instructor	
Textbook		Books lent from the library & various handouts will be distributed. Standard English-Japanese dictionary	
Additional Materials		Additional handouts & class materials will be distributed as needed.	
Evaluation		Class Participation: reading aloud, giving opinions & discussing culture(30%), Research & Presentations(30%), & Final Cultural Examination Report(40%). Students are expected to master basic reading skills & cultural information.	
Study Time		Students are expected to spend at least one hour preparing & reviewing for lessons. Students will keep an English notebook writing down vocabulary words/phrases, grammar, the correct use of English expressions, & cultural information.	
Office Hours		After Class	
Special Note		Students are expected to keep an English folder/notebook for the class & bring a standard English-Japanese dictionary to each class.	

授業科目	スポーツ科学ゼミⅡ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	山本　英作		
授業の目的	スポーツをめぐる様々な事象（遊び、祭り、健康観、身体観などを広く含む）に注目する。問題解決力や論理的思考力、コミュニケーション能力を高めるために、受講生は自ら選定したテーマについて調査研究と討議を行う方法を習得する。これらは「社会の諸問題に対して、子どもの教育・保育に基づいた考えをまとめ、表現し、行動することができる」という資質につながる。		
到達目標	・自分史とスポーツとの関わりを振り返りながら、研究テーマを選定することができる。 ・テーマに合った調査方法を選択して情報・資料を収集し、進捗状況を報告することができる。 ・調査した内容をレポートにまとめ、研究発表と質疑応答を行うことができる。		

授業の計画 各回2時間		
	1	ガイダンス：「スポーツ科学ゼミⅡ」で何を学ぶのか？　ルーブリックの説明
	2	研究テーマの設定(1)：「自分史におけるスポーツ」小レポート作成
	3	研究テーマの設定(2)：「自分史におけるスポーツ」発表、討議　　課題１：小レポート
	4	研究テーマの設定(3)：　研究テーマの検討　　課題のフィードバック
	5	情報・資料の収集(1)：　図書館を活用した調査方法
	6	情報・資料の収集(2)：　インターネットを活用した調査方法
	7	情報・資料の収集(3)：　聴き取りによる調査方法
	8	資料の整理・分析(1)：　研究テーマの再検討　　課題２：中間レポート
	9	資料の整理・分析(2)：　レポートの構想　　課題のフィードバック
	10	レポート作成(1)：「序論」を書く
	11	レポート作成(2)：「本論」（前半）を書く
	12	レポート作成(3)：「本論」（後半）を書く
	13	レポート作成(4)：「結論」を書く
	14	まとめ(1)：　レポート発表、討議　　課題３:発表抄録
	15	まとめ(2)：　レポート修正、完成　　課題４:最終レポート
	16	

授業形態	単独。複数学科の受講生が、調査研究と討議を通して学び合う演習である。
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考文献	「体育の科学」（杏林書院）ほか、受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。
評価方法・基準	授業への積極的な取組（50%）、レポート等の提出物（50%） ルーブリックで基準を示し、評価のポイントを明らかにしてフィードバックを行う。
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：次回の内容に応じた作業計画を立てる。（0.5時間） 復習：各回の作業を次回までに完了しておく。（0.5時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火・金曜日 16時～18時　　山本（英）研究室
履修上の注意事項	初回ガイダンスで説明する。「スポーツ科学ゼミⅠ」既修者が多い場合は、授業計画を変更する可能性がある。スポーツをめぐる様々な事象に興味関心を持ち、図書館の蔵書・資料やウェブ資料を用いた調査研究に意欲的であることが求められる。

授業科目	情報科学ゼミⅡ	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	幼児保育学科　1年　後期		
担当教員	寺尾　康(高知県教育センター、高知県教委、情報技術研究の実務経験を有する教員が情報技術とその仕組み、日本語ワープロなどについて指導する)、濱田　美晴		
授業の目的	「保育者に必要な基本的技能」として実践的な能力を備えるためのリテラシーを培うとともに、表計算検定への挑戦を通して、情報技術とその仕組みを理解し、課題に従って、必要な入力、関数の設定ができるようになる。また、時間内に処理ができるようになる。		
到達目標	学習履歴の分析の重要性を認識することができる。学習内容を、順序だててまとめることができる。		
授業の計画 各回2時間	1	ガイダンス利用者登録、授業の進め方の説明、表計算検定のポイント(3級)	
	2	表計算検定のポイント(2級)	
	3	コースの振り分け、表計算検定の練習1　ROUND、ROUNDUP、AVERAGE　IF文などの設定と表作成	
	4	表計算検定の練習2　ROUNDDOWN　VLOOKUP　ROUND　AND　ORの設定と表作成	
	5	表計算検定の練習3　IF　ROUNDUP　RANKの設定と表作成、セル証明など	
	6	表計算検定の練習4　IF　ROUNDUP　セル証明　グラフなど	
	7	表計算検定の練習5　VLOOKUP　ROUNDUP　セルの書式指定の仕方など	
	8	表計算検定の練習6　均等割り付け　ROUNDDOWN AVERAGE RANK 文などの設定とグラフ	
	9	表計算検定の練習7　VLOOKUP　ROUNDUP、ROUNDDOWNの設定と表作成	
	10	表計算検定の練習8　検定（模擬）のリハーサルと学習項目の整理	
	11	表計算検定の練習9　検定（模擬）1回目　学習項目の整理	
	12	表計算検定の練習10　検定（模擬）2回目　学習項目の整理	
	13	表計算検定の練習11　検定（模擬）3回目　学習項目の整理	
	14	ポートフォリオの整理と学習項目の振り返り	
	15	ポートフォリオのまとめと提出	
	16		
授業形態	クラス分け。複数。ポートフォリオを活用し主体的学びを実践する。		
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。		
参考文献	適宜、紹介する。		
評価方法・基準	授業項目に対する関心・意欲・態度、授業内課題（60%）、ポートフォリオのまとめ（20%）、検定（模擬）、試験結果（20%）標準的なワープロの操作を理解し、手際よく作業できるようになる。毎時課題についてのフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	教員が指定する教材を用いて練習をするなど予習・復習をすること　予習・復習合計1時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日　午後2時30分～4時　寺尾研究室・濱田研究室		
履修上の注意事項	ゼミにおいては、積極的な学習態度が必要とされる。 一定の到達度により、クラス分けをする。2級クラス：濱田　3級クラス：寺尾		

授業科目	英会話Ⅰ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	クレイグ・ディレイニ（非常勤）		
授業の目的	「人命を預かる責任感と倫理観を有し、世界や地域の動向を理解して、平和と友愛へ貢献する」ため、自分の英会話能力に自信を持つ授業で色々なトピックを使って英会話を練習します。トピックによってアクティビティやゲームや小プレゼンテーションをします。		
到達目標	英会話を練習しながら、発音、英文法、単語、リスニング、コミュニケーション対策も勉強し、英会話を実践することができるようになります。		

授業の計画 各回2時間		
	1	Talking about a　daycare center. Giving directions.
	2	/Talking about a Daycare Center and Giving Directions
	3	Talking to Children and Parents
	4	Giving Instructions to Children: making a Hat
	5	Outside the Daycare Center: Talking about the Neighborhood
	6	The Daycare Center Playground
	7	Allergies and Food
	8	Going to the Bathroom and Getting Ready for Nap Time
	9	Talking about Daycare Activities
	10	Daycare Events and Festivals
	11	Talking about Daycare Schedules
	12	Illness and Contacting Parents
	13	English Songs for Children
	14	Playing with Children and Talking to Parents II
	15	テストの復習
	16	試験

授業形態	単独。英会話練習、リスニング練習、発音練習
テキスト	Happy English for Childcare Kinseido ISBN-978-4-7647-4008-2
参考文献	なし
評価方法・基準	授業中の態度（20%）、小プレゼンテーション（10%）、小テスト（30%）、期末テスト（40%） 評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回で説明する。
授業時間外に必要な学習内容と時間	テキストを読んで予習、復習すること　　宿題をすること　予習・復習合計１時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業終了後に受け付ける
履修上の注意事項	毎日英語を勉強するよう努力する。

Course Name	English Conversation Ⅱ　英会話Ⅱ	授業の方法・単位	Engish Seminar・1 credit
Department	Early Childhood Education & Care　幼児保育学科　1st-year　2nd semester		
Instructor	Paula D. Fabian　ポーラ・ディ・フェビアン		
Aim of Class	Students will become more internationalized by acquiring the knowledge & mastering basic English language skills (vocabulary, English expressions & grammar) to express themselves & communicate in English.		
Achieving Goal	Students will study basic English vocabulary & expressions about everyday topics by reading & speaking (role-playing).		
授業の計画各回2時間	1	Introduction: Speaking　UNIT 1: 1 Hi, I'm Michiko.	
	2	UNIT 2: Can I get your telephone number?	
	3	UNIT 3: What's the time?	
	4	UNIT 4: Hometowns	
	5	UNIT 5: What's your favorite food?	
	6	UNIT 6: How often do you . . . ?	
	7	UNIT 7: Music in your Life	
	8	UNIT 8: Who's older, you or your sister?	
	9	UNIT 9: How was your weekend?	
	10	UNIT 10: Movies and Dating	
	11	UNIT 11: Weather, Seasons, and Health	
	12	UNIT 12: Cellphones, Computers, and Other Useful Things	
	13	UNIT 13: Have you ever . . . ?	
	14	UNIT 14: Let's Review, 課題　語彙のまとめ	
	15	UNIT 15: Test Yourself, 課題の返却とコメント　ORAL Examination	
	16	Final Written Examination	
授業形態	Seminar in English given by American instructor		
Textbook	Getting Into English by Joseph Cronin & Eric Bray (南雲堂) Standard English-Japanese dictionary		
Additional Materials	Additional handouts & class materials will be distributed as needed.		
Evaluation	Class Participation: reading & speaking in pairs(20%), Homework(20%), ORAL & Written Quizzes(20%) & Final Examination(40%). Students are expected to master basic English for communication: meaning of words/phrases, correct English usage, spelling & pronunciation.		
Study Time	Students are expected to spend at least one hour preparing for the next lesson & reviewing the previous lesson. Students will keep a notebook writing down vocabulary words & phrases, grammar, & the correct use of English expressions.		
Office Hours	After Class		
Special Note	Students are expected to keep an English folder/notebook for the class & bring a standard English-Japanese dictionary to every class.		

授業科目	現代スポーツ論	授業の方法・単位	講義・1単位
開講学科等	幼児保育学科　1年　前期		
担当教員	山本　英作		
授業の目的	学生が身につけるべき教養の一つとして、現代スポーツに注目する。日々のスポーツ・ニュースやスポーツ映像の検討を通して、社会･文化とスポーツとの様々な関わりについて考察できるようになる。この考察力は、「社会の諸問題に対して、こどもの教育・保育に基づいた考えをまとめ、表現し、行動する」ことができる資質を身につけることにつながる。		
到達目標	・現代スポーツの特徴についての基礎知識を身につけ､それらを具体的に説明することができる。 ・自分自身が関心を抱くスポーツについての出来事を現代スポーツの一事例としてとらえ、その特徴について考察し、レポートにまとめ報告することができる。		
授業の計画 各回2時間	1	ガイダンス：　「現代スポーツ論」で何を学ぶのか？　ルーブリックの説明	
	2	「スポーツ像」の歴史的変遷：「スポーツ」の語源・定義、イメージの変遷	
	3	現代スポーツの特徴①　スポーツの高度化：「競技スポーツ」とは？	
	4	現代スポーツの特徴②　スポーツの大衆化：「生涯スポーツ」とは？	
	5	現代スポーツの特徴③　スポーツのメディア化：「メディアスポーツ」とは？	
	6	スポーツ映像にみる社会・文化とスポーツとの関わり①　国内：高校野球、よさこい祭り等	
	7	スポーツ映像にみる社会・文化とスポーツとの関わり②　海外：W杯、オリンピック等 課題：レポート	
	8	課題レポートの提出、基礎知識の確認（1時間の授業が終了した後に筆記試験を行う）	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
授業形態	単独。視聴覚教材を活用して講義を進め、討議を交えた授業を行う。		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	清水諭・友添秀則　他「現代スポーツ評論」（創文企画） 杉本 厚夫「映画に学ぶスポーツ社会学」（世界思想社）　ほか		
評価方法・基準	筆記試験（50%）、レポート（25%）、授業への積極的な取組（25%） ルーブリックで基準を示し、評価のポイントを明らかにしてフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：日々の報道やウェブ情報に関心を持ち、スポーツの時事問題について調べる　（2時間） 復習：授業で学んだ視点をもとに、関心を持った問題を分析・考察しておく。　（2時間）		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火・金曜日 16時～18時　　山本（英）研究室		
履修上の注意事項	初回ガイダンスで説明する。		

授業科目	運動と健康	授業の方法・単位	講義・1単位
開講学科等	幼児保育学科　1年　前期		
担当教員	山本　英作		
授業の目的	運動と健康のかかわりについて理解を深め、生涯スポーツ社会を生きていくうえで基本的な運動を実践することによって健康増進を図るための知識・技能・態度を身につけることができるようになる。これらは、「人命を預かる責任感」や「子どもの健やかな成長を願う豊かな人間性」といった資質の基盤となる。		
到達目標	・授業で取り上げた問題に関する基礎知識を身につけ、それらを具体的に説明することができる。 ・3種類の運動（ストレッチング運動、有酸素運動、レジスタンス運動）を正しく実践できる。 ・自分の生活スタイルと健康状態を顧み、「運動」による健康増進計画を立案し、試行した結果をレポートにまとめて報告することができる。		
授業の計画 各回2時間	1	ガイダンス：「運動と健康」で何を学ぶのか？　ルーブリックの説明	
	2	運動と健康の概念： 「運動」、「体力」、「健康」とは？	
	3	疲労・ストレス・休養と運動： 運動による疲労回復とストレス解消、「ストレッチング運動」の紹介	
	4	運動と食事： スポーツ栄養学の基礎知識、「有酸素運動（ウォーキング）」の紹介	
	5	体脂肪を減らす： 運動による健康的なダイエット、「レジスタンス運動」の紹介	
	6	体力トレーニング、健康法の紹介： 映像と解説（動的ストレッチ、腰痛体操、ドローイン、スロトレ、体幹エクササイズなど）	
	7	「生涯スポーツ」の実践へ： スポーツ基本法、さまざまな運動施設、総合型地域スポーツクラブの現状など　課題：レポート	
	8	課題レポートの提出、基礎知識の確認（1時間の授業が終了した後に筆記試験を行う）	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
授業形態	単独。視聴覚教材を活用して講義を進め、討議を交えた授業を行う。		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	九州大学健康科学センター「新版　健康と運動の科学」（大修館書店） 島岡清「イラストでみる健康づくり運動指導」（市村出版） NPO法人ジュース「女性のためのスポーツ指導」（紀伊国屋書店）　等		
評価方法・基準	筆記試験（50%）、レポート（25%）、授業への積極的な取組（25%） ルーブリックで基準を示し、評価のポイントを明らかにしてフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：各回テーマに関する自己の現状を把握する。　（2時間） 復習：各回の学びをもとに自分に合った健康増進の方策を考える。（2時間）		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火・金曜日 16時～18時　山本（英）研究室		
履修上の注意事項	初回ガイダンスで説明する。		

授業科目	生涯スポーツ実技	授業の方法・単位	実技・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	山本　英作、池澤　眞由美		
授業の目的	健康的な生活を送るために、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも、安全にスポーツに親しんでいく「生涯スポーツ」の考え方を理解し、屋内と屋外の実技種目を手掛かりとして実践できるような力を身につける。これらは、「人命を預かる責任感」や「子どもの健やかな成長を願う豊かな人間性」といった資質の基盤となる。		
到達目標	複数種目の実践を通して「楽しみながら挑戦する」態度を身につけることができる。用具の準備から片付けまで、自主的に安全な協力体制をとり、受講生主導で進めることができる。体力・運動能力や運動習慣等について自己評価を行い、自己課題の改善方策を考察することができる。		
授業の計画 各回2時間	1	ガイダンス：授業計画、留意事項、ルーブリックの説明、運動施設の案内など（担当：山本、池澤）	
	2	＜屋外＞　フライングディスク：基本技術、ドッヂビー（担当：山本）	
	3	＜屋内＞　卓球：授業説明、進め方、チーム分け他（担当：池澤）	
	4	＜屋外＞　フライングディスク：基本技術、ディスクゴルフ（担当：山本）	
	5	＜屋内＞　卓球：基本技術、ラケットとボールに慣れる、ボールつき、全体ラリー他（担当：池澤）	
	6	＜屋外＞　ソフトバレーボール：基本技術、導入ゲーム（担当：山本）	
	7	＜屋内＞　卓球：フォアハンド系の技術、ショート、プッシュ、サービス、ラリー（担当：池澤）	
	8	＜屋外＞　新体力テスト（担当：山本、池澤）	
	9	＜屋内＞　新体力テスト（担当：山本、池澤）	
	10	＜屋外＞　ソフトバレーボール：チーム対抗リーグ戦（担当：山本）	
	11	＜屋内＞　卓球：全体ラリー、ゲーム（ダブルス）（担当：池澤）	
	12	＜屋外＞　フットサル：基本技術、導入ゲーム（担当：山本）	
	13	＜屋内＞　卓球：全体ラリー、ゲーム（ダブルス）（担当：池澤）	
	14	＜屋外＞　フットサル：チーム対抗リーグ戦（担当：山本）	
	15	＜屋内＞　卓球：全体ラリー、ゲーム（ダブルス）（担当：池澤）	
	16		
授業形態	複数。クラス分け。グループワーク、チームワークによって受講生が主体的に進める。		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	「最新スポーツルール百科」（大修館書店）		
評価方法・基準	山本：授業への積極的な参加（50%）、レポート（50%） 池澤：実技（30%）、授業態度（30%）、レポート（40%） ルーブリックで基準を示し、評価のポイントを明らかにしてフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：実践するスポーツ種目のルール、基本技術、戦術について調べる。　（0.5時間） 復習：各回の実技内容について、自己課題の改善方策を考察する。　（0.5時間）		
オフィスアワー	山本：火・金曜日 16:00～18:00　山本（英）研究室 池澤：金曜日 13:30～17:30 池澤研究室		
履修上の注意事項	初回ガイダンスで説明する。		

授業科目	キャリア形成演習	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	二宮　久美（非常勤）、小島　貴子（非常勤）		
授業の目的	「本学が掲げるキャリア形成基礎力の四つの能力」を身につけるため、自身の将来の生き方等を選択することができる能力を養う。		
到達目標	①キャリア形成基礎力「感じ、広げる力」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身に付ける。 ②幼児保育学科での学びを更に深めるために、関連する職業に就いての実社会での活動を知り、大学での学びが社会において持つ意味に気づくことができる。		

授業の計画 各回2時間		
	1	学びの目的と目標の明確化（なぜ何を大学で学ぶのか）オリエンテーション　（二宮）
	2	社会の状況について学ぶ　新聞記事の読み方と情報収集　（二宮）
	3	世界や地域を知る　（二宮）
	4	自己分析・自己理解(キャリアノート活用)　（小島）
	5	将来像に向けた目標設定(キャリアノート活用)　（小島）
	6	学生生活における行動計画(キャリアノート活用)　（小島）
	7	記事を使って課題を見つける　（二宮）
	8	ニュースについてのグループ討議　（二宮）
	9	キャリアモデル（将来就くと予想される職業で働いている人）を探す　（小島）
	10	専門性を活かした多様な生き方と働き方の研究（感じ、広げる力を身に付ける）　（小島）
	11	実習現場や職場におけるコミュニケーション（前に踏み出す力を身に付ける）　（小島）
	12	社会変化と職業(考え抜く力を身に付ける)　（小島）
	13	能力開発の仕組みを知る(チームで働く力について考える)　（小島）
	14	記事を使ったグループ演習と解説　（二宮）
	15	現代社会の課題の考察(自己採点と振り返り)　（二宮）
	16	試験

授業形態	オムニバス。グループワーク
テキスト	キャリアノート①～③、ハンドアウトを配布
参考文献	授業の中で随時紹介する
評価方法・基準	授業への取組（３０％）、レポート（４０％）、試験（３０％） 評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回で説明する。
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習（キャリアノートで学習する）復習（授業内容の振り返り）予習・復習合計１時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業終了後
履修上の注意事項	積極的な学習態度が必要とされる。

授業科目	野外活動演習	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	幼児保育学科　1年　前期		
担当教員	宮﨑　大樹		
授業の目的	仲間と協力して野外活動を行うことで、多様な人々と協働し理解しあえるコミュニケーション能力の向上を図り、「子どもの健やかな成長を願う豊かな人間性を身につける」ことを目的とする。また、自然と人間、社会に対する認識を深め一般的、人間的教養を養い、社会人としての基礎となる豊かな教養と広い識見を備えた人材を育成することを目的とする。		
到達目標	・野外活動に関する基礎的な知識・技能を身につけることができる。 ・多様な自然体験活動を実践する中で、仲間と協力したり、コミュニケーションを図ったりする大切さに気づくことができる。		
授業の計画 各回2時間	1	オリエンテーション：野外活動とは、学習の進め方について	
	2	野外活動におけるアイスブレイク	
	3	野外活動の基礎知識	
	4	野外活動の計画と準備	
	5	野外活動における安全確保と救急救命法	
	6	野外活動におけるクラフトと道具の使用法、ロープワーク	
	7	キャンプの計画①	
	8	キャンプの計画②	
	9	宿泊型野外活動：野外調理の実践	
	10	宿泊型野外活動：　キャンプファイヤーの計画と準備	
	11	宿泊型野外活動：　キャンプファイヤーの実践	
	12	宿泊型野外活動：　クラフト	
	13	宿泊型野外活動：　ネイチャーゲームの計画と準備	
	14	宿泊型野外活動：ネイチャーゲーム	
	15	宿泊型野外活動：野外活動の評価とふり返り、改善案の計画	
	16		
授業形態	単独。 双方向性の授業を重視し、受講生の意見や感想を求め、ディスカッションを交えながら進めていく。授業内容に見通しを持って、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。		
テキスト	指定しない。適宜資料を配布するとともに参考図書を紹介する。		
参考文献	適宜紹介		
評価方法・基準	授業への取り組み（50%）、提出物（30%）・レポート（20%）。 野外活動に関する基礎的な技能を身につけることができるとともに、理論や専門用語を説明することができる。レポートを返却してフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：事前に授業内容について自らの考えをノートにまとめること。 復習：学習内容を復習して、自分の考えをまとめ理解を深めること。（予習・復習合計4時間）		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日午前9時～10時		
履修上の注意事項	・受講定員　30名 ・国立室戸青少年自然の家で2泊3日の宿泊型野外活動を行う。活動にかかる費用は自己負担であり、約5000円を予定している。 ・野外での活動が中心となるので、各自健康管理には十分留意し、自らの安全確保にも努めること。		